

後発地震注意情報に 注意しましょう

①後発地震とは

マグニチュード7・0以上の地震が発生した後は、さらに大きな地震が発生する可能性が高まると考えられており、先に発生した地震を『先発地震』、これ以降に引き続いて発生する大規模地震を『後発地震』と呼びます。

②後発地震が発生する確率

後発地震の発生確率は、100回に1回程度と低いものの、実際に発生した場合は甚大な被害が想定されます。いつ発生しても迅速な避難行動を取れるように、日頃からの備えが必要です。

③後発地震注意情報とは

令和4年12月より、『北海道・三陸沖後発地震注意情報』の運用が開始されています。

この注意情報は、日本海溝・千島海溝沿いでマグニチュード7・0以上の地震が発生した際に、さらに大きな地震が起る可能性があるという気象庁が判断した場合などに発表される注意情報です。

実際に、注意情報が発表された場合、北海道から千葉県までの太平洋側の広い範囲で後発地震に注意しなければなりません。

後発地震の発生は、先発地震の発生直後ほど高く、時間の経過とともに可能性は低くなります。特に注意情報発表後、1週間程度は地震に警戒してください。実際に、東日本大震災の時には、3月9日にマグニチュード7・3の地震が発生した2日後の、3月11日にマグニチュード9・0の地震が発生しています。

④後発地震注意情報の発表の流れ

地震発生後に、気象庁において一定精度のマグニチュードを推定（地震発生後15分〜2時間程度）し、『北海道・三陸沖後発地震注意情報』の発表基準を満たす地震であると判断され次第、内閣府・気象庁合同記者会見が開かれ、気象庁から『北海道・三陸沖後発地震注意情報の発表と解説』が行われます。その後、防災行政無線やIP告知情報端末により、後発地震情報

が発表されたことを、町民の皆さんへ周知いたします。

⑤後発地震注意情報発表後の行動

注意情報発表後は、仕事や学校へ

行くなど、通常どおりの生活を送りつつ、万が一に備え、再度、家具の固定をしたり、非常持出品の確認、避難場所、避難経路の確認を行い、自分や家族の安全を守りましょう。

